

# 北上川改修の歴史と、受け継がれる治水事業への情熱

北上川は、流域面積約10,150km<sup>2</sup>(全国第4位)、幹川流路延長約249km(全国第5位)の、岩手県および宮城県を流れる東北最大の河川です。豊かな穀倉地帯や良質な漁場を育み、古くから舟運路として利用されてきた北上川は、今も昔も石巻の発展に欠かせない存在です。

しかし、かつては湿地を蛇行し、ひとたび大雨が降れば洪水を引き起こす暴れ川でした。幾度も水害に悩まされながらも、流域の治水・開発事業はほとんど手付かずのままでしたが、藩政時代以降から本格的な治水事業が始まりました。北上川改修の歴史と、北上川改修工事により石巻の礎を築いた川村孫兵衛重吉について紹介します。

## 北上川改修の歴史

江戸時代に、仙台藩による新田開発と舟運路整備を目的とした改修が実施されました。慶長10年(1605年)に伊達相模宗直が河道付替(相模土手)工事に着手し、川を蛇行させて勾配を緩くし、舟を通りやすくしました。

その後、川村孫兵衛重吉(以下、孫兵衛)が元和2年(1616年)から寛永3年(1626年)にかけて北上川・迫川・江合川を合流させた「三川合流工事」および鹿又から石巻までの舟運路を確保しました。この工事により、石巻は米の集積地となり、江戸への年貢米回送の基地としてにぎわいました。孫兵衛が湊町石巻の繁



北上川(現在の旧北上川)・迫川・江合川の三川合流点

栄の基礎をつくつたといえます。

明治期に入ってから、国による工事は水上交通のための低水工事が主体でしたが、明治43年(1910年)の大洪水を契機に、洪水防衛を主目的とした北上川第1期改修工事が開始されました。新河道の開削、追波川の拡幅、北上川の分流施設建設などが実施されて昭和9年(1934年)に完了し、現在の北上川と旧北上川の形になりました。

昭和22年(1947年)と翌年に襲った台風により計画を上回る洪水が発生し大きな被害を受けたため、新北上川の大規模掘削や築堤などを進めるとともに、旧北上川分流施設として脇谷水門・鴨波水門を建設し、平成20年4月から運用しています。

## ◆ 土木家の神様・川村孫兵衛重吉

現在の山口市に生まれた孫兵衛は、仙台藩主であった伊達政宗に土木の才を見出され抜擢さ



「川開き祭り」では、大縄を祀った御神輿が練り歩き、勝敗で豊漁か豊作かを決める綱引きならぬ“大縄引き大会”などが行なわれる

困難を極めました。孫兵衛は自ら地域の富豪や支援者を回つて資金を募り、果ては私財を費やし、人夫と共に工事現場に泊まり込むなどして、まさに心血を注いだと伝えられています。そうした苦勞の末に大改修が実現し、下流部の洪水防止や流域低湿地での新田開発が可能となっただけでなく、北上川流域の一関、南部、八戸といった各藩の米や物資が石巻に運び込まれるようになり、小さな寒村が豊かな川湊として発展する礎を築きました。

孫兵衛は、今も、石巻の開祖として地元の尊敬を集めています。その業績への報恩・感謝の祭りとして、約100年前から毎年夏に石巻最大のお祭り「川開き祭り」が開催されています。一人の土木技術者に感謝する、これほど大きなお祭りは、全国でも珍しいといえます。

また、市民の憩いの場である日和山公園に昭和58年(1983年)、市制施行50周年を記念して孫兵衛の銅像が建立されました。



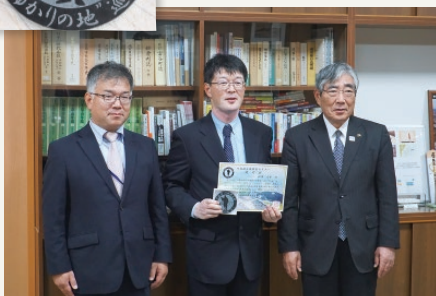
明治時代



## 北上川改修の歴史



副賞として授与された  
特製コースター



10月27日(孫兵衛の命日)に授与式が行われた  
(写真左から)高橋北上川下流河川事務所長、第1号  
制覇者の秋場さん、亀山石巻市長

同事務所では、郷土の偉人の功績を知ってもらおうと北上川改修着手400年を記念し、本年1月に「川村孫兵衛シンポジウム」を開催しました。また、本年7月〜8月末には、石巻市と出身地の萩市と連携し、多くの人に孫兵衛の功績を紹介しつつ、併せて石巻の自然・文化・人々の暮らしや、震災からの復興を体感してもらうことを目的に、「孫兵衛ゆかりの地巡りスタンプラリー」を開催しました。7名の方が石巻市および萩市の全ゆかりの地を制覇し、石巻市長から

「2年前に石巻に赴任し、北上川下流河川事務所  
の調査課長として復旧・復興事業に携わる大澤修一は「私も震災での復旧・復興事業を通じて孫兵衛の偉業を知り、事業に対する情熱に心を打たれるとともに、治水や土木工事がまちづくりの基礎であることを改めて実感しました」と語ります。

今に引き継がれる  
まちづくりへの思い



調査課長 大澤 修一

### 厳選! 孫兵衛ゆかりの 地めぐり

#### 川村孫兵衛重吉銅像(日和山)

旧北上川を指さしている姿は、まるで温かいまなざしで旧北上川の工事や復興を目指す石巻市を見守り続けているかのよう



#### 縄張稲荷神社

孫兵衛が測量などで使った間縄を奉納し、工事安全を祈願して創建されたと伝えられている。川開き祭りには欠かせない神社。



(左から)川村家墓碑と重吉神社  
孫兵衛と妻そして子孫14代目まで  
が眠る墓所と孫兵衛を祀って建立された重吉神社

「川村孫兵衛重吉マスター認定証」と井内石で作られた孫兵衛コースターが授与されました。多くの復旧・復興事業が進行し、新しいまちに生まれ変わろうとしている石巻市。その中心となる北上川の治水事業への情熱は、孫兵衛をはじめとする多くの先人の手を経て、震災復興を担う事業者へとつながっています。過去に治水事業に携わってきた人々の思いを受け継ぎながら、新しい時代の技術や考え方を取り入れ、未来に向けた石巻のまちづくりが続けられています。



スタンプラリーの  
印象帳と、集めたスタンプの数に応じて進呈したオリジナルカード

## 北上川改修の主な歴史

- 1605年 伊達相模宗直が「相模土手」に着手(～1610年)
- 1616年 川村孫兵衛重吉が、三川合流工事および流路開削工事に着手(～1626年)
- 1880年 石巻から盛岡間の航路改良を目的とした低水工事に着手(～1902年)
- 1910年 2度にわたる大洪水により甚大な被害発生
- 1911年 北上川第1期改修工事に着手(分流施設の建設、新北上川の開削)(～1934年)
- 1947年 カスリン台風による洪水
- 1948年 アイオン台風による洪水
- 1955年 新北上川の大規模掘削に着手(～1991年)
- 1996年 旧北上川分流施設建設事業に着手
- 2008年 旧北上川分流施設完成



原始河川及び江戸時代(1)



江戸時代(2)